



～夢の素材をつくる 花と絵と音楽と水のある学校～

国立二小だより

平成27年1月30日
国立市立国立第二小学校
校長 小林 理人

寒さに耐えた美しさ

春の訪れに備えた取組

校長 小林 理人

厳しい寒さが続く中、校庭の土壇横にある紅白の梅のつぼみがほころびはじめ、その甘い香りは春の訪れを感じさせてくれます。24日（土）に行われた土曜授業参観には、たくさんの保護者の皆様にご来校いただき、学校の様子や進学、進級を3月に控えた子供たちの様子を見ていただきました。

3学期は1年間のまとめの学期であるとともに、4月から始まる新しい年度に向けての準備の学期でもあります。そこで、学校では子供たちや保護者の皆様を対象に実施した学校アンケート及び教職員の自己評価の結果や、国や東京都、国立市の方針、計画等を踏まえた次年度の教育計画を作成しています。

昨年末からテレビや新聞等で報道されているように、平成30年を目途に公示される新しい学習指導要領（各学校で教育課程を編成する際の基準）の内容についての検討が始まり、我が国の子供たちの実態やこれからの時代に必要とされる資質・能力について示されました。

それによると、現在の子供たちの実態として、基礎的な学力については定着、向上が見られるものの「判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べるのが苦手」「自己肯定感や学習意欲、社会参画の意識等が国際的に見て低い」といった課題が指摘されています。本校の子供たちの実態もこれに重なるところがあり、別紙にて報告させていただいたとおり、「自分の意見や考えを、進んで発言することができる。」「自分には、いいところや得意なことがある。」などの項目については課題が見られ、来年度の教育計画には、改善に向けての具体的な計画を盛り込んでいく必要があります。

また、国際化や少子高齢化等が急激に進行する社会に対応して必要な資質・能力の育成について「基礎的な知識・技能を習得するとともに、実社会や実生活の中でそれらを活用すること」や「自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究し、学びの成果等を表現し、更に実践に生かしていけるようにすること」が重要であるとし、本校が進めている問題解決的な学習（アクティブ・ラーニング）を一層充実させる方針を示しています。そして、それに伴い義務教育だけではなく高等学校教育、大学教育及びそれらを接続する大学入学者選抜について抜本的な改革を行うとしており、現在の6年生から新しい大学入学者選抜の対象となる可能性があります。

このような子供の実態や国の動向を踏まえながら、新年度の教育計画の策定を進めています。具体的な計画については学校だよりの3月号でお知らせする予定ですが、前に紹介をした生活科、総合的な学習の時間や、裏面に紹介をした特別活動の充実が、問題解決能力の育成や「判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べるのが苦手」「自己肯定感や学習意欲、社会参画の意識等が国際的に見て低い」等の課題解決につながるものと考えています。

梅一輪 一輪ほどの あたたかさ

梅は冬の寒さに耐え、長い冬の間、開花に向けて準備を進めます。長い冬の間準備があつてこそその香りや美しさなのかもしれません。教育計画づくりは4月から始まる次年度への準備です。「自慢の学校」「子供の夢を育む学校」「全ての子供を大切に作る学校」として、春の訪れに備えた準備を進めて行きます。